

らったりしながら、何とかやってきたと草野さん。「本当に周りの人に恵まれています。教えてもらうためには、ふだんからの人間関係が非常に大事になりますね」

得意分野を持つことが大事

人間関係に恵まれたおかげと盛んに言う草野さんだが、自らも努力を怠っているわけではない。「教えてもらう前に、できる限り調べます。それでも分からないことは、たくさん出てくるんです。最低限のことを分かったうえでの相談ですから、聞きたい内容が相手にも伝わりやすい。どこがポイントかが伝われば、質問された先生も的確なアドバイスをしてくれます」

本も惜しまず買う。「本は財産ですから。最低限必要な本は最初にそろえましたし、他の先生方から『この本は参考になるよ』とか『この本に載っているから読んでみなさい』と教えていただいた本は、買って勉強しています」

もちろん、一方的に教えてもらうという受け身だけでは、よい人間関係は築けない。「労働事件などの自分の得意分野の情報や知識は、こちらからも全面的に提供するようにします。また、たとえば仕事が重なって手伝ってもらうときには、儲かる仕事のほうを振る。助けてもらう立場ですから。そうした気持ちが必要ではないでしょうか」

また、簡易裁判所訴訟代理関係業務も積極的に行っている草野さんだが、「簡裁代理権を取るためにも勉強しましたが、取った後のほうがもっと勉強しましたね。100時間の研修を受け

て、試験を受けて取得しますが、それだけでは実務をやるには足りません。ですから、本を買って勉強しましたし、法廷で裁判を傍聴したり、時間がある限りは、いろいろ学んでいます。特に弁論の技術に関しては、本には載っていないことが多い。法廷で弁護士さんの弁論を聞くのは、すごく参考になります。自分に経験がないわけですから、見習うところから入らないといけない」

時間ができれば、東京で開催されているセミナーにも参加。「直接に業務に関係するものに限らず、興味のあるものには、いろいろ参加しています。たとえば、出版社主催のセミナーとか、日本労働弁護団の研修会など。労働事件も扱っていますので、参考になります」

これから開業する人に対して、「資格を取ったからにはプロとして求められる水準になることは当たり前。それにプラス、何か1つでもいいから、誰にも負けない得意分野を持つことが大事ですね。他の先生にも喜んでもらえますし、力になってもらえると思います」

仕事を取る手法を学ぶ

資格試験が、実務にある程度則した資格もあれば、試験勉強はあまり則していない資格もある。後者の典型が行政書士だ。埼玉県で行政書士事務所を営む廣畑信二さんも、「行政書士は資格を取得して、すぐに実務ができるかというと、そうではない」と言う。しかし、「だからといって、実務研修ばかり行くのは、あまりお勧めではありません」と続ける。とはいっても、

資格開業後の学習が成功のカギ

廣畑さんは実務研修を否定するわけではない。研修も大事だが、「まず、仕事を取る手法を考えるほうが重要だと思います。それで実務を経験したうえで実務研修を受ける。仕事をしていない状態で勉強するのと、実際に仕事をやってから勉強するのでは、理解度が違うんです」

廣畑さんがまず行ったのは、集客のためのホームページ作り。「ホームページを作っても、検索の上位に来ないと意味がないので、メインとなる業務を絞り込みました。仕事を依頼したい人は、『行政書士』で検索しませんから」

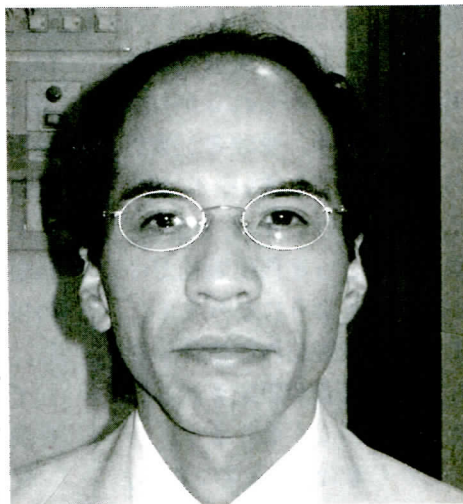
廣畑さんは、現在、自らを『起業書士』と名乗り、起業支援、事業計画書作成を業務としている。「すでにそのときに、会社設立を業務に掲げる人は大勢いました。それで差別化を図るために自分が何を得意とするかを考えたところ、流通業でバイヤーしていたときに事業計画書を書いていたことに思い当たったのです」

成功者を模倣するだけではダメ

そういう開業のノウハウは、実は起業コンサルタントとしても活躍している行政書士の丸山学さんから学んだ。本コーナーにも何度が登場してもらっている。「丸山先生が最初に出された本も読みました。当時は、まだ起業セミナーを開催されておらず、直接会ってもらい、レクチャーを受けました」と廣畑さん。「成功している人の方法論をマネするのは手っ取り早い。しかし、始めた時期も違うし、そのまま丸ごとマネても成功できるわけではない。成功していく段階の枝葉の部分ではなく、根っこの部分を

成功者のノウハウの根っこの部分を理解することが大事です。

廣畑信二さん



理解しないとダメだと思います」

丸山先生だけでなく、いろんな先達の本を読み、そこから自分に合った手法を取捨選択していったと廣畑さんは言う。「マーケティングの本もよく読みます。マーケティングから学ぶことは大きい。土業の人は、その辺が弱いですよ。今どきは資格取ったら仕事が来ると思っている人は少ないと思いますし、それぞれいろいろと考えている。ただ、ダメな理由を自ら作ってしまって動かない人が多いですね」

実務を学ぶにも、自ら動き、仕事を取ってから実地で学んでいく。「初めてやる業務は、当然分からないことも多いですよ。分からないことは、官公庁に聞いたりしています。実務を学ぶのに一番よい方法は、初めての業務を手伝ってもらうのではなく、同業者に丸投げして、補助者として業務を学ばせてもらうこと。学ぶ姿勢が大事だと思います」